

令和5年度

# 高川原学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分で考え、判断し、進んで学習する児童の育成
- ポジティブな行動支援を取り入れた授業の実践

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	教頭	住吉洋子	教諭	狩場甲治
大宮由樹子		教諭	林三恵子	教諭	藍原美桜
		教諭	上田千賀		
		教諭	竹内貴啓		

校長

吉本 憲司

### ○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○教科学習や読み聞かせ等、言葉を大切にしたり取り組みを継続することで、語彙が増えつつある。 ●身に着けた技能の定着や適切に使う力が、十分に身につけていない。	・80%以上の児童が、これまでに習った文字や漢字を使うことができる。 ・80%以上の児童が、これまでに習った計算ができる。	・授業中に、練習問題に取り組む時間を確保する。 ・短時間にできるマス計算やミニ漢字テストなどを、継続的に行う。	・定期的に既習の学習の振り返りの時間を確保する。 ・授業の流れの中に位置づけて、ミニテスト等に取り組むようにする。	・ミニテストにおいて、8割の児童に習得がみられる。しかし、日常生活で生かしていない児童が多い。	・ミニテストだけでなく、フラッシュカードを使うなどして、既習学年の漢字・計算に取り組む。

#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○タブレットや従来のツールを使うことで、表現の工夫や児童相互の考えを共有する姿が見られる。 ●自分の思いを自分の言葉で伝えたり、図を描く・具体物とつなげるなどの思考をしたりする力に課題がある。	・友達の意見を聞き、自分の考えと比べて、似ているところや違うところに気付くことができる。 ・考えを自分の得意なこと(話す・書くなど)を生かして表現することができる。	・意見を集約したり、児童の考えを分かりやすく提示したりするために、ICT等のツールを用いるなど、視覚化できる環境を整える。 ・多様な表現方法のモデルを提示するとともに、児童の工夫した表現を認め、全体に広げる。	・思考したことや解き方などを文章や言葉で表す機会を増やし、慣れさせる。 ・互いのよさを見つけて伝え合う活動を取り入れ、意欲的に表現したり話し合ったりできるようにする。	・ICTを使った学習に楽しく取り組んでいる。しかし、自分の意見を伝える活動には、抵抗を示す児童が多い。 ・自分の意見を、文章化するなど形にするのが苦手なため、表現できない児童がいる。	・聞いたことや話したいことを、自分の言葉で、まとめたり表現したりできるようにする。 ・うなずきなど発言に対する反応をするようにする、発言回数の見える化をするなどの工夫をし、話し合い活動を活発にする。

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学ぶ楽しさや喜びを感じ、進んで課題や自主学習に取り組む児童が増えている。 ●自信をもって、主体的に学習に取り組む姿までには、至っていない。	・自分の考えを意欲的に伝えようとする。 ・提示された課題だけでなく、練習問題や自主勉強に、進んで取り組む。	・学習への参加意欲を高めるために、様々な意思表示の仕方を提示する。 ・児童が自信をもって学習に取り組めるように、できたことを認め、称賛する。	・スモールステップにより、達成感を感じられるようにし、意欲につなげる。 ・ペアやグループでの活動を積極的に取り入れ、自信を持って活動できるようにする。	・ほとんどの児童が、宿題をする習慣が、ついている。 ・指示された課題には、進んで取り組めるが、それ以上は、難しい児童が多い。	・授業中、主体的に取り組める児童をめざし、発表や挙手の回数を増やせるように工夫する。 ・引き続き、スモールステップやグループ学習を取り入れ、自信を持って学習できるようにする。

## 令和5年度 学力向上ロードマップ

